



東京コンテンツプロデューサーズ・ラボ プレゼンツ

知財の資格をビジネスに活かす！

～音楽プロデューサーの現場から～

第6回「今まさにニューミドルマンが求められる理由」



- 第1回「音楽業界における主役の交替、CD からコンサートへ」(18号)
- 第2回「コンテンツビジネスの環境変化とスタートアップの優位性」(19号)
- 第3回「グローバルプラットフォームとどう向き合うか？」(20号)
- 第4回「犬は吠えるがデジタルは進む」(21号)
- 第5回「『デジタルコンテンツ白書 2016』のデータから見える音楽ビジネス近未来」(22号)

*これまでの全記事をウェブでお読みいただけます http://ip-edu.org/ipmr_koukaikiji

知財ホルダー向けのエンタメビジネスコラムの第6回目になりました。今回は、僕の最近の活動を紹介することで、現状認識と問題意識をお伝えしたいと思います。

近年、人前でお話をする機会が増えました。自分がオーガナイズするイベントやセミナー以外にも、今秋だけでも、電機労連という組合の勉強会、大阪電気通信大学デジタルゲーム学科や大阪工業大学知的財産学部での講座など、様々なシチュエーションがあります。その際に、最初にする自己紹介で僕は、「東京に生まれ、大学にほとんど行かずに音楽業界にフェードインして、自分の会社をつくり、現在に至るという経歴です。」と話し始めます。続けて、「自分が育った音楽業界は、素晴らしいところだし、愛情もあるのですが、近年は景気の悪い話が多くなっている気がします。その理由は一言でまとめることができ、『デジタルに対して後ろ向きでブレーキを踏んでいるから』なのです。音楽業界を良い方向に変えていくために、異業種と連携し、新しい人材を育成していくなどエンターテック・エバンジェリス

トと自称する活動を行っています。さて、今日のテーマは……」と始まります。

本コラムでは、僕の近年の活動をまとめてご紹介して、その意図や背景の解説をしたいと思います。

2014年に始めた「エンタメ系スタートアップのアワード」がSTART ME UP AWARDS

<<http://www.startmeupawards.com/>>です。いわゆるシード（初期）段階の起業家を対象にしています。エンタメ系の定義は自由。自分がエンタメと思えばOKというものです。応募資格は設立2年以内、資本金5000万円以下の法人、もしくは個人となっているので、ビジネスアイデアだけで意欲のある人が応募することも可能です。

書類審査を経て、二次審査に進むのが20～30人位。二次審査では、審査員の前でプレゼンテーションをしてもらいます。審査員はメディアコンテンツ業界の目利きのビジネスパーソン達で、キュレーターと呼んでいます。Apple 情報に精通したジャーナリスト林信行さんや、ギズモード編集長からサイバーエージェントで新メディアを立ち上げた尾田和実

山口 哲一（やまぐち・のりかず）：1964年東京生まれ。音楽プロデューサー、コンテンツビジネス・エバンジェリスト。株式会社バグ・コーポレーション代表取締役。「デジタルコンテンツ白書（経済産業省監修）」編集委員。経済産業省「コンテンツ産業長期ビジョン検討委員会」委員。音楽とITに関する知見に定評があり、著書多数。エンタメ系スタートアップを支援する「STAERT ME UP AWARDS」やプロ作曲家育成「山口ゼミ」、新時代型の音楽エージェント「ニューミドルマン養成講座」などを主宰し、人材育成にも注力している。

さん、MTV からユニバーサルミュージックとデジタル部門で活躍を続け、今年独立、エンターテックアクセラレーターを名乗る鈴木貴歩さん、ミュージックコンシェルジュのふくりゅうさんや、アニメ会社 GONZO の石川真一郎社長、グロービスのベンチャーキャピタリスト東明宏さんという錚々たる顔ぶれで激論をして、最終審査に進む「ファイナリスト」を選びます。

ファイナリストは、2015 年は 9 組、2016 年は 7 組でした。その際にキュレーターが自分が興味を持った起業家のアドバイザーとなって、最終審査に向けてブラッシュアップをするのが SMUA の大きな特徴です。

最終審査会は、経産省のデジタルコンテンツ EXPO の一環として日本科学未来館で行われます。300 人のホールで、観客と最終審査員、多くのベンチャーキャピタリストやメディアの前で、プレゼンテーションを行います。最終審査員は、ツイッタージャパン、スペースシャワーネットワーク、AOI Pro、ワタナベエンターテインメントなどのトップや知財戦略本部の世話人など、業界の重鎮の皆さんです。優秀者の選考をし、表彰式を行った後に、展望ホールでファイナリスト、審査員、観客が入り混じった懇親会を行い、ネットワークを広げていきます。

有志の実行委員会形式で行っているイベントで、言い出しっぺの僕の意図は、既存のメディアコンテンツ業界と若い起業家の接点の場をつくることでした。いわゆる IT 系、ベンチャー関連以外のフィールドでの場作りがテーマでした。この 3 年でアクセラレータープログラムを始める大企業も増えてきましたが、もっと起業家と事業会社、権利者団体などはコミュニケーションの場を持つべきです。3 年続けたことで、少しずつですが成果も出てきています。

5 月に、都内のクラブ行き放題で 3900 円というサービス LIVE3S <<http://live3.info/>>を始めた株式会社 3.0 は、2014 年の最優秀賞受賞者です。社長の浅原くんが今年の懇親会にも顔を出してくれて

いました。

今年のグランプリは、なんと著名なサウンドプロデューサーの浅田祐介さんでした。彼は IT リテラシーが高く、僕と二人で、音楽家がチームに必ずいる「ミュージシャンズハッカソン」という企画を始めました。自らキャプテンと名乗って、ハッカソンにも参加しています。今回は、そのミュージシャンズハッカソンで二人のプログラマーと一緒にプロトタイプを作った「Syncee」というサービスを、事業プランとともに応募してくれました。世界中で同じ時間に同じ楽曲を聞いている人同士だけがチャットできるというロマンティックなサービスです。今回の受賞を機会に会社を設立し、本格的に事業展開するそうです。数々のヒット曲を輩出したサウンドプロデューサーに、「起業家」という肩書が増えました。是非、成功してほしいと思いますし、僕も応援するつもりです。

今まで日本ではなかった、クロスオーバーなネットワークが作れていることを実感しています。

今年の 10 月からは、ニューミドルマンラボ養成講座の第 5 期<<http://tcpl.jp/newmiddleman/>>を行っています。全 8 回中 6 回は、コンテンツビジネスに携わる、その分野の第一人者をゲスト講師として呼び出しています。今期は偶然ですが、弁護士の方が二人います。

一人は、Field-R 法律事務所代表の山崎卓也氏。エンタメとスポーツに特化した活動で、この分野では日本一、いやアジア一の弁護士です。

テーマは、「グローバル著作権ビジネス～今、世界で起きているバトルと、成功のための未来予測」で、音楽流通がグローバルプラットフォームになった今、日本でどういう戦略を持てばよいのかという、最先端の、というか時代を先取りした話を伺うことができました。僕自身が興奮するくらい、旬の話題でした。マーリンという世界の独立系レーベルと配信事業会社の交渉を受け持つエージェント NPO の日本

オフィス設立にも深く関わる、実業にもきちんとコミットしている弁護士です。

もう一人は、風営法改正に大活躍した功労者、齋藤貴弘氏も実業にしっかりコミットしています。弁護士の仕事の再定義を志しているという意味で、まさにニューミドルマン的な存在だと言えるでしょう。実は彼は、ニューミドルマン養成講座の第一期の受講生です。社会を変えることにきちんと関わる活動に共感と尊敬を覚えます。知財ホルダーにも刺激になる存在ではないでしょうか？

第5期の講座は、PHP研究所から、電子書籍とPOD（パブリッシュオンデマンド）の形で書籍化することになっているので、興味のある方は、お読みください。他の講師も素晴らしい方ばかりで、楽しくてためになる内容になっていると思います。

ニューミドルマンラボは、年2～3回の養成講座だけではなく、通年型でインキュベーションプログラムもはじめました。これは本当に少数精鋭で、2016年は6名。大学院のゼミのようでもあり、グループレッスンのようでもあり、僕がコンサルタントをしているとも言えるでしょう。個人で目標を明確に打ち出してもらい、実現のための戦略と一緒に考え、必要に応じて、キーパーソンへの紹介などもしています。初めての試みでしたが、成果が始まっています。前述のSMUAのファイナリストにも2名が選出されました。新たな事業を立ち上げた者もいます。ネットにおけるセルフブランディングを突き詰める作業を上手に進めているケースもあります。来春には、成果を発表できると思うので、もう少しお待ち下さい。実践で結果が出てくるのが一番うれしいです。

そもそもニューミドルマンという概念は、田坂広志さんの著書から引用しています。「デジタルの発達で、供給者側に立つビジネスはなくなる、ミドル・マンは死ぬけれど、ユーザー側に立つニューミドル

マンが登場するのだ」という田坂さんの提唱された考え方を2000年頃に知り、痺れました。「俺はニューミドルマンだったんだ」と思い、自分がスタッフ向けのセミナーを立ち上げる時に、使わせていただきました。田坂さんのご許可もいただいています。尊敬する田坂さんとの対談は、拙著『新時代ミュージックビジネス最終講義』（リットーミュージック刊）の巻末に収録されていますので、是非、お読みください。

ニューミドルマンラボのテーマは、

**時代の変化に合った（できれば先取りした）
次世代の音楽ビジネス（という領域自体を疑いつつ）を
再構築する方法を考え、実践していくこと。**

です。ほぼ、僕自身のテーマといっても過言ではありません。

音楽プロデューサーとして掲げるのが、

**テクノロジー活用によるエンタメの拡張、
グローバル展開、
異業種コラボレーション**

の3つなのも、ニューミドルマンとして、死活的に必要なと思うからです。

日本のコンテンツビジネスの生態系は、傷つき、機能不全を起こしています。再構築が必要です。ただ、IT系の人たちは、「もう駄目でしょ？ 壊れるでしょう？」とおっしゃいますが僕はそうは思いません。パーツとしては有効な部分がたくさんあります。それらはすくい上げて、モデューラーとして、最適化して使えばスムーズです。そもそも生態系という表現ですから、全部を壊してよいわけが無いですよ。有効性を失った部分を、補完したり、置き換えて順序を変えたりすることで、再生させることができるはずですよ。

僕自身のビジョンは、2021年の日本のコンテン

ツビビジネス状況を魅力的なものにするということです。トランプ大統領の出現は驚きましたが、これで安倍政権の長期化は確定的で、2020 年までは、概ね経済的には現状の延長線上でままた上手に進むでしょう。ただ残念ながら、それまでの間に日本が抱える構造的な問題が解決される可能性は低いように感じます。だとすると、2020 年まで「誤魔化すことができてしまった」反動も含めて、2021 年に大きな落ち込みが予想されます。従来の仕組みが、正真

正銘、使いものにならなくなるのは、おそらく 2021 年です。そこで日本人の強みを活かして、何をするのか、そのための準備には、4 年間というのはちょうどよい長さなのかもしれません。

今回も知財ホルダー向けの無料セミナーを行います。2021 年までに僕らがやっておくべきことのお話をみなさんと意見交換できればと思いますので、是非、足をお運びください。

(次号へつづく)



東京コンテンツプロデューサーズ・ラボ プレゼンツ

<本コラム連動> 1/26 新春無料セミナー

「エンターテインメント業界の近未来と知的財産活用によるビジネス」開催

本コラム執筆者の山口哲一氏が、知財技能士の皆さんをはじめとする知財ホルダーに向けた "エンターテインメント業界の近未来と知的財産活用によるビジネス" をライブで語ります。

【セミナー講師山口氏より】

「日本が「先進国」として元気で要るためのキーワードは、エンタメ、観光、テクノロジーであることは異論はないと思います。今後あらゆる業種で進む、テクノロジー活用、グローバル市場展開、異業種連携。コンテンツ系スタートアップを支援する START ME UP AWARDS オーガナイザーとしての新市場への知見や音楽プロデューサーでの現場体験に基づき、これからの知財ビジネスが音楽業界、エンターテインメント業界において、どのように展開していくのかを紐解いていきます。また、他業界での知財展開の可能性を、参加者の皆様とのディスカッションも踏まえ議論を深めていく予定です。」

(講師プロフィール) 1964 年東京生まれ。音楽プロデューサー、コンテンツビジネス・エバンジェリスト。株式会社バグ・コーポレーション代表取締役。「デジタルコンテンツ白書 (経済産業省監修)」編集委員。経済産業省「コンテンツ産業長期ビジョン検討委員会」委員。音楽と IT に関する知見に定評があり、著書多数。エンタメ系スタートアップを支援する「START ME UP AWARDS」やプロ作曲家育成「山口ゼミ」、新時代型の音楽エージェント「ニューミドルマン養成講座」などを主宰し、人材育成にも注力している。



本コラムには書かれない貴重な話も聴ける機会ですので、お見逃しなく。
これからのビジネスの可能性と、知財の資格を活かすためのヒントをみつけてみませんか。

日時：2017 年 1 月 26 日 (木) 19:30~21:00

場所：東京コンテンツプロデューサーズ・ラボ (最寄り駅：JR 高田馬場駅から徒歩 5 分)

参加費：無料 定員：35 名

主催：東京コンテンツプロデューサーズ・ラボ

協力：知的財産教育協会

申込・詳細：東京コンテンツプロデューサーズ・ラボ ウェブサイト

以下よりお申込みください (1/20 申込締切)

<http://tcpl.jp/archives/2631>

知的財産管理技能検定 1 級 (ブランド専門業務) 学科対策講座

📅 2017年2月12日・19日 各日曜日 ⌚ 90分 × 4コマ

知的財産管理技能検定 2 級対策講座

📅 2017年1月14日・21日・2月11日・18日・3月4日 各土曜日 ⌚ 90分 × 3コマ

TOKYO CONTENTS PRODUCERS-LAB

東京コンテンツプロデューサーズ・ラボ

東京都新宿区下落合 1-1-8 ✉ kouza@tcpl.jp

詳細は Web サイトへ

<http://tcpl.jp/>

知的財産管理技能検定 1 級 (ブランド専門業務) 学科対策講座

📅 2017年2月19日・3月5日 各日曜日 ⌚ 90分 × 4コマ

知的財産管理技能検定 1 級 (特許専門業務) 実技対策講座

📅 2017年2月12日 (日) ⌚ 90分 × 2コマ

知的財産管理技能検定 2 級対策講座

📅 2017年2月4日・18日・25日・3月4日 各土曜日 ⌚ 90分 × 4コマ

知的財産管理技能検定 3 級対策講座

📅 2017年2月9日・16日 ⌚ 60分 × 2コマ / 2月23日・3月2日 ⌚ 90分 × 2コマ



CONTENTS BUSINESS-LAB

コンテンツビジネス・ラボ

大阪府大阪市北区大深町 3-1 ✉ info@cb-lab.jp

詳細は Web サイトへ

<https://cb-lab.jp/>

中小企業センター

Center for Small and Medium Enterprises



知的財産に関する無償サービス提供のご案内

知的財産教育協会中小企業センターでは、中小企業の皆さまの声を集め、
中小企業に役立つ知財政策を実現するための活動を行うとともに、
皆さまに知的財産に関するサービス提供を行っています。

- ・ 経営に役立つ知財専門誌『IP マネジメントレビュー』の無償提供
(PDF 形式バックナンバー)
- ・ 関係省庁等からの中小企業に関する役立つ情報を無償配信
- ・ 経営に貢献する知的財産管理技能士の養成を支援
- ・ 登録者限定のイベントの開催 (予定) など

**完全
無料**

中小企業の経営者・従業者の方はどなたでも無料ご登録いただけますので、ぜひご登録ください。



知的財産教育協会 中小企業センター

詳細・登録・お問い合わせはウェブサイトから

知的財産 中小企業センター

検索